

あそびの時間大切に



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みがけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

第36回新指導員学校



さいたま市からオンラインで講義を行った秋山賢太郎指導員

学童保育の基礎学ぶ

岩手県学童保育連絡協議会主催の第36回新指導員学校は6月6日にZOOMを使ったオンライン形式で開催されました。県内学童保育クラブから、採用3年未満の指導員ら48人が参加。学童保育の歴史や基礎、指導員としての心の持ち方を学びました。

はじめに「学童保育の歴史と最近の情勢」について嘉村祐之全国学童保育連絡協議会副会長(盛岡市指導員)が講話を行いました。「学童保育は法制化されて20年

程度、新制度がスタートして6年と制度としてはまだ若い。よりよい制度になるよう、社会の中で育てていく必要がある」と述べました。最近の情勢について、昨年2月の緊急事態宣言下で国が学童保育の原則開所を要請したことについて、「社会を支える施設であるという認識は深まったが、それだけの内実が伴っていないことが明らかになった」と解説しました。

続いて、埼玉県さいたま市の秋山賢太郎指導員が「指導員の仕事で大切にしたいこと」と題して講義を行いました。秋山指導員は放課後も時間に追われて生

保護者向け 学童保育講座を開催

県連協では、県内学童保育クラブの保護者向けに学童保育講座をリモートで開催します。

6月27日と7月10日に

それぞれ2講座を開催。初級編、中級編があり県連役員が講師を務めます。申し込み、問い合わせは県連事務所まで。

(滝沢市・ひかりの森学童クラブ)、齊藤礼佳指導員(盛岡市・こずかた学童クラブ)が先輩指導員の体験談を披露しました。働き始めの頃に高学年の態度に戸惑ったこと、仕事を続ける中で悩んだこと、子どもたちと関わる中で見つけた喜びなど、自身の体験を語り

ました。引き続き行われたテープルートークでは、参加者がオンラインで7グループに分

新指導員学校参加者感想

丁寧な関わり

心がけたい

滝沢市・奥子学童クラブ 第三・今松明子 指導員

自分の子ども2人が学童クラブでお世話になった。今日の研修を聞いて、保護

者としても、もつと学童に関わっておけばよかったかなと思った。日頃は時間に追われてしまいがちだが、子ども一人ひとりの話を聞き、丁寧に関わっていきたい。特にトラブルなどがあった時はゆっくり子どもたちの気持ち聞いてあげたいと感じた。

事実だけでなく

背景も伝えたい

盛岡市・松園学童保育なかなよしクラブ 牧原 昌之 指導員

学童保育の歴史や指導員の基本を学び、より意識が高まった。最近、保護者対応をすることが増えた。子どもたちの様子を事実だけでなく、背景も含めてしっかりと伝え、保護者の皆さんが安心して働けるようにしていきたい。行事に楽しいネーミングをすると、わくわく感が増すなど他の学童の事例が参考になった。

子どものストレス大きく

県連協アンケート

コロナ禍の県内学童保育

岩手県学童保育連絡協議会は県内の学童保育クラブとそこで生活する子どもたちを対象に「新型コロナウイルスに関するアンケート」を実施しました。回答を寄せたクラブの約半数が「子どもたちのストレスが大きくなっている」と回答しました。新型コロナウイルスの感染拡大は、学童保育クラブとそこで生活する子どもたちにも大きな影響を及ぼしていることが浮き彫りになりました。



感染防止のため、壁に向かって一列に並んで弁当を食べる子どもたち

アンケートは5月に、県内の学童保育クラブ176クラブを無作為に抽出し、クラブ向けと、子ども向けの2種類のアンケートを送付。46クラブから回答がありました。コロナ禍で変わったこととして、41%の学童保育クラブが「子どもたちのストレスが大きくなった」と回答。他に「保護者のつな

が少なくなくなった」「感染対策が十分にとれていない」などの回答が多数ありました。施設の都合で密を解消できなかったり、感染防止対策のルールや指示が増え、子どもも、指導員もストレスを抱えている様子が見て取れました。どんな支援やサポートが必要かとの問いには、「オンライン研修の開催」「指導員

の仕事の軽減」などの回答が多く、学びの場の確保、感染防止対策で仕事が増えている指導員への対応を望む声が聞かれました。県連協はアンケート結果を踏まえ、課題解決に向けた支援を行います。要望のあったオンライン研修や行政への要望を行うほか、各学童保育クラブが相談や情報交換できるような環境を整えていきます。クラブ単位で解決の難しい課題等がありましたら、県連協までご相談ください。

「のびのび遊べない」

県内学童ク 子どもたちの声

県連協は、クラブ向けのアンケートと併せて子どもを対象にした「新型コロナウイルスに関するアンケート」を行いました。回答は自由記述式で高学年を中心に子どもたちの生の声が寄せられました。

困っていること、不安なことなどの問いには「のびのび遊ぶことができない」「熱があるとコロナと疑わ

れる」「修学旅行に行けるの心配」など率直な声が聞かれました。大人に言いたいことへの問いには、「ワクチン接種を子どもでもできるように考えてほしい」「もっと感染対策を強化してほしい」などの提言もありました。県連協は学童保育クラブが「子どもの権利条約」の理念を踏まえた事業である

ことを念頭に、子どもの意見表明権を尊重する立場から、今回の試みとして子ども対象のアンケートを実施しました。子どもたちの視点、感じ方に寄り添いながら、子どもたちの声を広く社会に届けていきます。

アンケートは下記QRコードから閲覧できます。

